

2024卒

# 就職活動スケジュール 完全解説

コロナ禍に加え、激変する社会情勢。  
24卒就職活動への影響は？

2024卒（2022年6月時点で学部3年生／修士1年生など）の就職活動は、採用スケジュールの多様化／早期化といった傾向に加え、コロナ禍の影響で不透明感が増しています。24卒予定の理系学生の就職活動スケジュールはどのような日程になるのか。本記事では、24卒就活時期の見通しや、注意すべきポイントを解説します。

政府推奨スケジュールは  
昨年同様、採用情報解禁は  
2023年3月

2021年11月に政府は「2024年に卒業する学生の就活ルールについて、広報活動を3月以降、採用選考活動を6月以降、内定を10月以降とする現行日程を維持する」という方針を決定しました。

現行（2023卒）の基本的な就活スケジュールを改めて確認すると、まず学部3年／修士1年の夏から冬にかけてインターンシップが実施されます。本採用の選考活動が本格的にスタートするのは翌年（2022年）3月1日からで、この日から大手就職サイトでも企業の採用情報や会社説明会情報が数多く公開され、就活生も企業エントリーや説明会参加といった活動を本格化させます。そして6月1日から企業の採用選考（面接や筆記試験など）が解禁となり、選考通過者に対して随時内々定が出される、というのが政府推奨スケジュールの大きな流れとなります。

採用直結型インターンや  
早期選考など、選考プロセスの  
多様化＆複雑化が進む

前述の就職活動スケジュールはあ

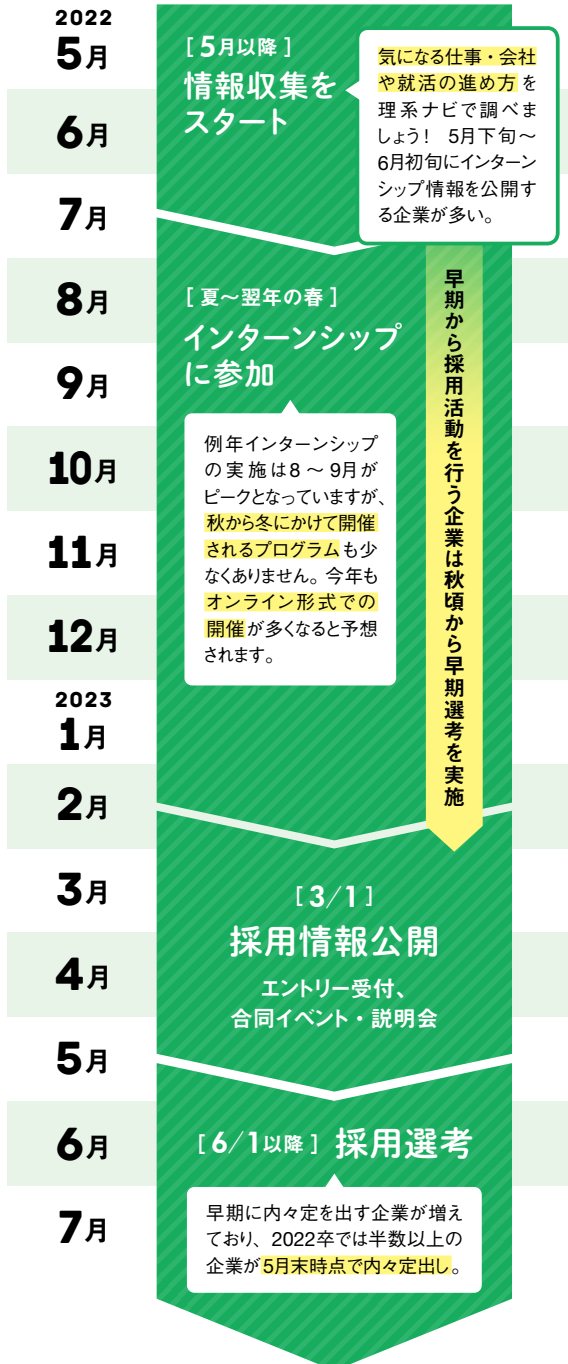
くまで政府推奨の日程であって、実際はこのスケジュールに沿った採用活動を行う企業ばかりではありません。現在でも、学部3年／修士1年の夏以降から採用直結型インターンシップを行う企業や、秋～冬くらいで面接を実施して早々に内々定を出している企業など、早期から採用活動を行っている企業は少なくありません。特に近年は採用活動が一段と早期化しており、2022卒の就職活動では5月末までに63.3%の学生が内定を受諾しているという調査結果が出ています（理系ナビ調べ）。早期からしっかりと情報収集に取り組みることが重要といえるでしょう。

コロナ禍の影響で  
オンライン就活が一気に浸透

コロナ問題は収束の兆しがなかなか見えず、2024卒の就職活動に

## 2024卒 就活スケジュールの見通し

昨年度の動きを参考にした2024卒向け就職活動スケジュールの大まかな見通しです。企業の選考活動時期は多様化しているので、志望企業・業界の選考スケジュールは個別にチェックしましょう。



おいてもその影響は避けられないでしょう。引き続き、不特定多数が集まる合同説明会やインターンシップの開催は減少する可能性が高く、オンラインで採用活動を行う企業が主流となりそうです。面接でも、初期はWEBで実施して最終面接など後半の選考は対面としたり、最終面接までWEBで完結させたりしている企業もあります。とはいえ、双方が実際に顔を合わせる機会が少ないま

ま内定まで至っているケースでは、企業、学生ともにマッチングに対する不安を抱いているというケースも多いようです。この夏実施される24卒対象のサマリーインターンシップについても、多くの企業がオンラインでのインターンシップを計画しています。その一方で、オフラインでインターンシップを実施したいという企業側の意向も根強く、特にメーカー系の企

業では研究所や製造ラインなど現場で見えられない/伝えられない情報も多いため、オフライン(現地開催)への期待が高い印象です。

**コロナ禍やウクライナ情勢の就職市場への影響は**

いわゆる「コロナショック」により日本経済は大きな打撃を受けています。さらにウクライナ情勢の影響によるサプライチェーンの寸断、エ

ネルギー価格の高騰なども大きな懸念事項となっています。景気悪化が進行すれば、今後の就職難易度が上昇していく可能性は否定できません。とはいえ、プラス思考でとらえれば「先に就職した先輩達よりも、今後の経済の在りようを見極めたうえで業界・企業を選べる」という考え方もできます。コロナ禍においても業績を伸ばしている業態・企業は少なくないですし、一時的に業績が悪化

したとしても中長期的には大きなポテンシャルを秘めた企業もあるので、必要以上に悲観的にならず、業界・企業研究に取り組みましょう。

## 2024卒はさらなる 就活早期化で高まる インターンシップの重要性

理系学生は卒業年次に学業が忙しくなるケースが多いため、就職活動が本格化する前に学業や研究、就活準備などを可能な限り進めておくことが望ましいでしょう。早期に内定を獲得できれば問題ありませんが、学部4年／修士2年の夏以降も就職活動に取り組む必要が出てくると、学業への影響はさらに大きくなってしまう。

また、近年は早期選考や通年採用を実施する企業が増えているため、就職活動を円滑に進めるためには早めに行動を起こす必要があります。選考プロセスにおいてインターンシップを重視している企業が増加しているため、できる限り学部3年／修士1年の時点でのインターンシップ参加を推奨します。インターン

シップは仕事や会社についての理解を深められるため、経験者は本選考での志望理由が明確で、自己分析も深掘りできている傾向があります。さらに、参加学生に対して優先的に早期選考情報を提供したり、そのまま採用選考を実施するケースもあるため、参加メリットは少なくありません。

とはいえ、現時点では「どの業界／職種を志望すればいいのかわからない」という方も少なくないでしょう。そういったケースでは、少しでも関心を持ったインターンシップに参加してみましょう。インターンシップは仕事や会社について、多くの判断材料を集められるので、自身の適性や本当にやりたいことを見極める絶好の機会です。仮に「全然イメージと違った、自分には合わないと思った」といった結果でも、今後の行動指針を決めるうえで貴重な情報を得られるはずですよ。

すでに多くの企業で2024卒向けインターンシップのエントリー受付を開始しています。最近ではWEBインターンシップや、短期の1dayインターンシップを実施する

企業も増加しており、参加のチャンスは広がっているのので、みなさんも『理系ナビ2024』で興味のあるプログラムを探してみてください。

就職活動が本格的に始まるまでにインターンシップを活用し、自分の適性や社会に対する理解を深めてみてはいかがでしょうか。

## まとめ

現在進行中の2023卒就職活動は、コロナの影響で選考プロセスや就活スケジュールの変更を余儀なくされています。インターンシップの実施時期やオンラインでのプログラム提供などはまだまだ改善の余地も多く、現状を分析したうえで2024卒就活における選考プロセス、スケジュールの見直しを行う企業は少なくないでしょう。繰り返しとなりますが、24卒就活は各企業が発信する最新情報を早期からチェックし、行動計画を考えることが一層重要となります。就職活動が本格化するまでの時間を活用し、社会についての理解を深めたり、自身のスキルアップに努めたりと、時間を有意義に使ってください。「自分が将来どうなりたいのか」「そのために何をすべきなのか」いまから考えてみてください。



## 2024卒 就活のチェックポイント



CHECK!

1

### 政府推奨就活スケジュールは 前年から変更なし

24卒対象のインターンシップは2022年夏から冬にかけて実施。就職情報解禁は2023年3月、面接解禁は6月から（政府推奨スケジュール）。

CHECK!

2

### 早期選考を行う企業は増加傾向

2022卒の就職活動では学部4年／修士2年の5月末までに63.3%の学生が内定を受諾。早い企業は前年の秋から採用活動を開始。24卒就活では基本スケジュールにとられない企業がさらに増加か。

CHECK!

3

### 就活のオンライン化が加速

コロナ対策で、会社説明会や面接など、WEBでの実施が主流に。インターンシップについてもオンラインプログラムが多いものの、一部企業ではオフラインに戻す動きも。

CHECK!

4

### コロナショックやウクライナ情勢など、 就活市場への影響は不可避

国内の就職内定率はコロナ禍以前に近づくも、景気動向は予断を許さず。さらにウクライナ情勢の影響でサプライチェーン寸断やエネルギー高騰などのリスクも浮上。社会情勢をウォッチし、中長期的視点で企業・業界研究に取り組みましょう。

CHECK!

5

### 企業選考における インターンシップ重視の傾向はさらに強まる

採用直結型のインターンシップを実施する企業が増加。情報収集の面でもインターンシップ参加は就職活動における大きなアドバンテージを得られるので、できる限り活用しましょう。